

## 第5回森と水の源流館授業づくりセミナー実践報告会 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

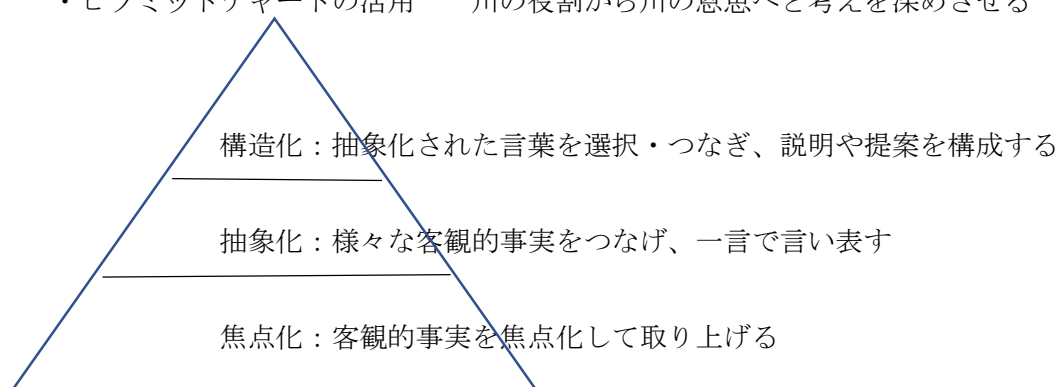
- ◇開催日時 2022年2月26日(土) 10時~12時30分
- ◇方法 川上村役場会議室からのハイブリッド方式
- ◇参加者数 会場(18名) + オンライン(23名) = 41名
- ◇内容

### 1. 実践報告

#### (1) 奈良市立平城小学校の実践：奥戸先生・新宮先生

川上村の教材化によって、子どもの学びに火をつける

- ・紀の川じりしの歌詞の意味を読み解き、川の役割に気づかせる  
意味から歌詞に込められた思いを読み解く
- ・ピラミッドチャートの活用 川の役割から川の恩恵へと考えを深めさせる



- ・吉野川の役割、吉野川の恩恵より、秋篠川の役割や秋篠川の恩恵へと類推させる

#### (2) 長野県山ノ内町立南小学校の実践：菅原先生

ユネスコスクールであり、地域はユネスコエコパークでもある。

- ・学びのキーワード「つなぎたい」「残したい」
- ・体験的な学びから課題解決の学びへ、そして地域社会の改善へと行動化を図る  
○単なる「ふるさと学習」に終わらせることなく、地域創生につながる学びの開発
- ・そとの施設等々の連携で、学びの多様化・深化を図る  
きれいな水を下流に流すためには・・・信州大との連携  
きれいな水を未来にまで残すには・・・サントリーとの連携

##### ①地域で作っている雪白米が金賞を受賞した事実

##### ②雪白米を育てた川の源流息を調査する

##### ③役場の方をゲストティーチャーに招へいし、町の総合計画について座談会をもつ

「ユネスコエコパーク」や「ユネスコスクール」を核とした町づくりが行われていることを知る

##### ④水の恵みを研究する森と水の源流館とつながって学ぶ

##### ⑤中流域についての調査活動：天竜川総合学習館とつながる 「ざざ虫」

川を大切にすることを醸成しようとして取り組んでいることを知る。

子どもの視野を広げることにもつながる

##### ⑥下流域についての調査活動

修学旅行で氷見市の海岸を訪問し、ビニールごみの多さに驚く

### (3) 川上村立川上小学校の取組：橋先生

「水のバトン」：ユネスコエコパークとしての川上村に暮らす

- ・村を大切に思う子どもになってほしい
- ・今の状況が当たり前でないことに気づかせたい
- ・水のつながりプロジェクトでの櫃原市立香具山小との出会いを大切にしたい

①教育長先生の「中奥の砂糖水」の話より水に対する関心が高まる

②源流域へのフィールドワーク 源流の水の味見をする

③川上村の各地域はそれぞれの水源の水を飲用水に利用している

「水の味比べ」をする：「地域の飲用水は地域ごとに少しずつ異なっている」ことを発見する

④香具山小に川上村のおいしい水をプレゼントする

⑤おいしい水をつくるために木を植える

木の利活用 → 川上村の主たる生業である林業の学習へ

## 2. 栗山村長との意見交流

○川上宣言に書かれていることに大人も子どもも巻き込んで地方創生につなげたい

川上宣言

- ・私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。
- ・私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- ・私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に触れ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- ・私たち川上は、これから育つ子ども達が、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- ・私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

○川上宣言に即した行政の取り組みを進めていくが、川上宣言は行政の指針であるだけでなく、宣言を行動化する主体は村民自身である。行政と村民が一体となって取り組んでいくことで、地方創生につなげたい。そのために、「教育」がカギだと考えている。

○「学びから行動へ」というE S Dの学びは川上宣言の具現化になくってはならない学びだ。

○令和6年4月 かわかみ源流学園が開校する 「源流」には「ことのはじまり」「ことのおこり」という意味を込めている。SDGsを核とした学校をつくっていききたい。

- ・龍谷大学では福島県で地域での様々な学びを博物館で展示することで地域に返す取組を行っている →源流館も現在リニューアルオープンの準備中。「水の恵み」をテーマとして全国の学校が取り組んだ学びの軌跡を展示できるスペースも構想中である。